

1、 顧問校長挨拶 安藤 篤喜

先日ゴルフの松山選手が「マスターズ」で日本人初優勝した。その際に注目されたのは、松山選手だけでなく、松山選手のキャディーである早藤さん。試合後コースに一礼する姿が素晴らしい行動であると世界から称賛されたのである。日本人は、水泳や陸上、野球などのスポーツ選手を見ても、コースやグラウンドに礼する姿がよくみられる。このような行動が話題になることは誇らしいことである。人権のベースはそのような他の者に対する思いやりである。人権の研修会が思いやりの心をもち、より良い会になるようによろしくお願いします。

2、「第2次浜松市人権施策推進計画について」

浜松市人権啓発センター所長 白柳 寿明 様

令和2～6年度は第2次浜松市人権施策推進計画の施行年度である。人権は身近で大切なものであるが、まだまだ様々な人権問題がある。政策目標は「思いやりあふれる社会の実現」である。人権を重要なことと90%以上の人が思っているが、人権尊重の意識が、生活の中に定着していると思っている人は30%しかいない。そこで、「気づき育み人権を身近に」を基本姿勢として人権の啓発や教育の実施を行っていききたい。人権教育の推進には正しい知識が必要となる。女性の人権や子供の人権、性的マイノリティの人権などまだまだ人権の問題は山積みである。偏見・差別を無くし、思いやりあふれる社会の実現を目指していきたい。協力をお願いします。



3、「人権啓発センターの具体的な取り組み」

人権啓発センター 土屋 守 様

人権問題には様々な種類がある。学校関係の主なものとしては、いじめ・虐待・コロナ関係全て人権問題である。具体的な人権問題としては17個挙げられている。人権啓発センターはクリエート浜松1階にある。ぜひ活用してほしい。学校にかかわる具体的な取り組みとしては「1 人権教育指導者研修会」「2 地域ふれあい講座」「3 人権啓発資料」「4 人権啓発絵本」「5 出前講座」「6 研修図書の貸し出し」がある。学校組織の中で、人権教育って何をやる担当かと悩んでいる人はぜひ利用して、爪痕を残してほしい。そして、研修の中で人権問題を取り上げ、人権教育を推進していただきたい。



4、指導講評・まとめ

ぜひ、皆さんの力で基本政策目標を意識し、学校の先生方、子供、保護者、地域に人権意識の定着を図りたい。また、12月の人権週間等で人権啓発センターを利用・活用していただき、人権教育の取り組みを推進していただきたい。